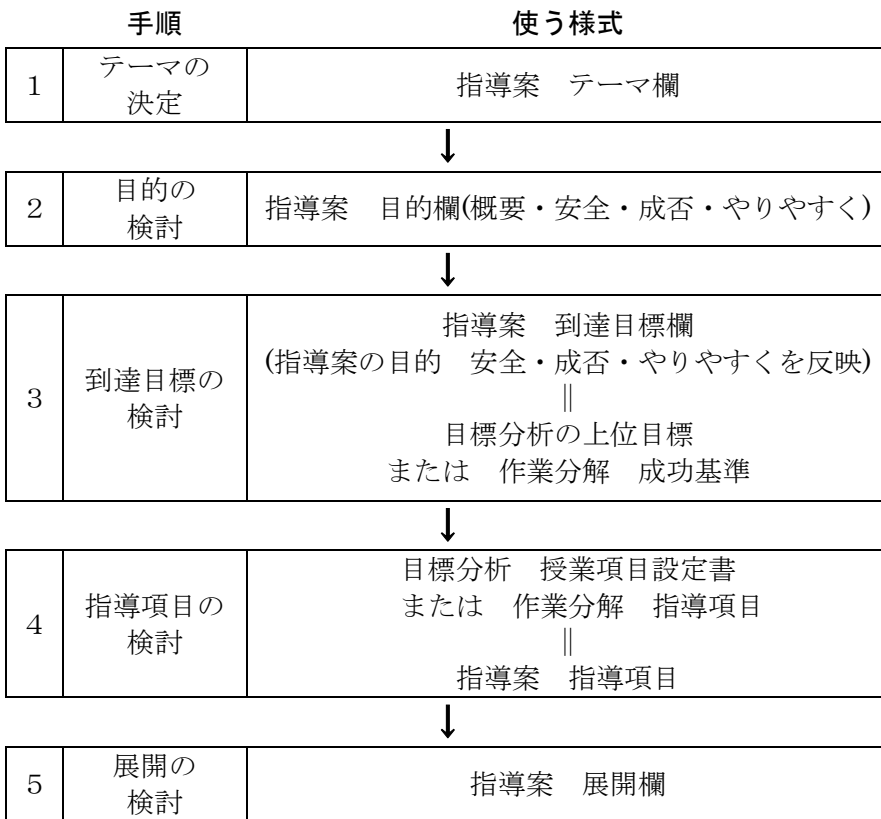


指導案作成のワン・ポイント・アドバイス

1 指導案立案のプロセスと各様式の関係

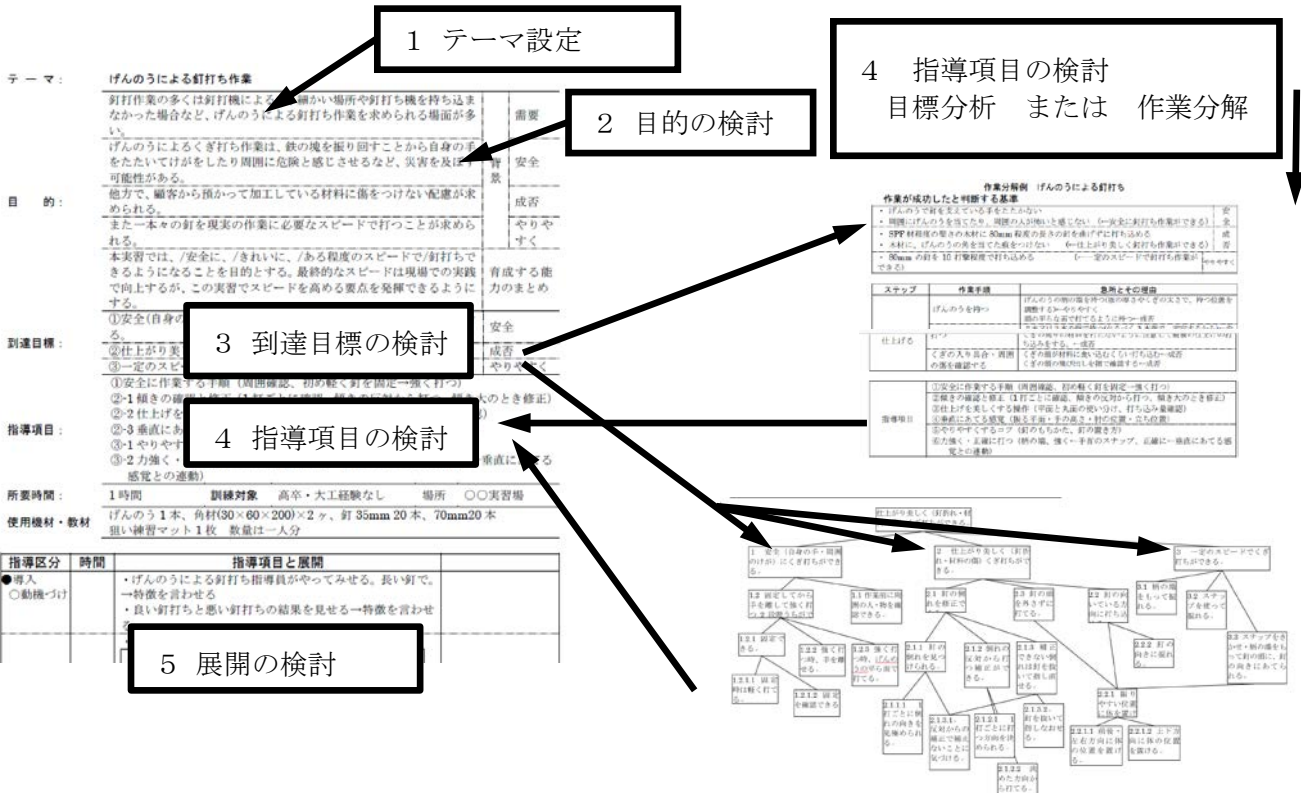


指導案および作業分解については、本冊子（指導準備ツール）の末尾に添付されている様式、もしくは Moodle からダウンロードできる様式を使用すること。目標分析については、Moodle からダウンロードできる様式を使用すること。

アウトプットは以下 1、2 のどちらかとなる

1. 指導案と目標分析
2. 指導案と作業分解

2 指導案概要部の記述手順とコツ



指導案

目的：そのテーマの訓練を行う理由を記述します

- ・ 需要：テーマが使われ現実の仕事の場面
- ・ 安全：仕事の場面で配慮すべき安全上の課題
- ・ 成否：仕事の場面で求められる成果。精度・品質など
- ・ やりやすく：仕事の場面で求められる効率

テーマ： げんのうによる釘打ち作業

釘打作業の多くは釘打機によるが、網なかつた場合など、げんのうによる釘打ち。

到達目標：受講後に受講者ができるようになることを記述します

- ・ 目的欄に記載した安全・成否・やりやすくのそれぞれを網羅します
- ・ ～できる（×：～を知っている/理解できる/説明できる）
- ・ 目標分析または作業分解に反映させます

げんのうによるくぎ打ち作業は、鉄の塊を振り回すことから自身の手に危険と感じさせるなど、災害を及ぼす	背景	安全
工している材料に傷をつけない配慮が求		成否
業に必要なスピードで打つことが求めら		やりやす
い、/ある程度のスピードで釘打るで	育成する能	力のまとめ
する。最終的なスピードは現場での実践		
スピードを高める要点を発揮できるように		

到達目標： ①安全(自身の手をたたかず、周囲に怖いと感じさせない)に作業できる。安全

②仕上がり美しく(釘を曲げない、材料に傷をつけない)作業できる。成否

③一定のスピード(80mm10打撃)で作業できる。やりやすく

指導項目： ①安全に作業する手順 (周囲確認、初め軽く釘を固定→強く打つ)

②-1 傾きの確認と修正 (1打ごとに確認、傾きの反対から打つ、傾き大のとき修正)

②-2 仕上げを美しくする操作 (平面と丸面の使い分け打ち込み量確認)

②-3 垂直にあてる感覚 (振る平面・手の高さ・肘の位置・立ち位置)

③-1 やりやすくするコツ (釘のもちかた、釘の置き方)

③-2 力強く・正確に打つ (柄の端、強く←手首のスナップ、正確に←垂直にあてる感覚との連動)

所要時間： 1時間 訓練対象

使用機材・教材 げんのう 1本、角材(30×60×2 狙い練習マット 1枚 数量は一

指導項目：到達目標に到達するために指導する項目

- ・ ～の方法、～の手順 (名詞形にする、「～を説明する」など指導方法は記述しない)
- ・ 到達目標欄に記載した安全・成否・やりやすくのそれぞれに対応
- ・ 目標分析または作業分解の結果を記述します

3 指導案 展開部の記述のコツ

指導項目：

- ①安全に作業する手順（周囲確認、初め軽く釘を固定→強く打つ）
- ②-1 傾きの確認と修正（1打ごとに確認、傾きの反対から打つ、傾き大のとき修正）
- ②-2 仕上げを美しくする操作（平面と丸面の使い分け、打ち込み量確認）
- ②-3 垂直にあてる感覚（振る平面・手の高さ・肘の位置・立ち位置）
- ③-1 やりやすくするコツ（釘のもちかた、釘の置き方）
- ③-2 力強く・正確に打つ（柄の端、強く←手首のスナップ、正確に←垂直にあてる感覚との連動）

概要部の指導項目のすべてを指導します
 概要部の指導項目と同じ名称で記述します
 概要部と展開部の対応を明確に記述します(同じ番号づけ)

		■指導項目① 安全に作業する手順	
○提示		<ul style="list-style-type: none"> ・安全確認を説明する。 ・げんのうを振る範囲に人ものがないことを確認 ・くぎ打ちの2段階を説明する。 ・不用意に強く打つと釘が飛ぶ ・固定→打ち込み→仕上げ ・平らな面と裏側の面を使い分ける(理由は言わない) ・指導員がやってみせる。 	げんのう 材料 短いくぎ
○適用		・短い釘で訓練生に練習 5本程度繰り返させる	
○提示		<ul style="list-style-type: none"> ■指導項目②-1 傾きの ・釘が傾いている受講者 ・1打ごとに傾きを見る ・傾くのは、そちらからたたいている証拠 ・傾いたら反対からたたく ・反対からのたたきで修正できないときは手で修正する 	
○適用	10/15	・繰り返し短い釘で練習させる	
○評価		<ul style="list-style-type: none"> ・7~8本練習させる ・周囲の確認・2段階で作業していることを確認する。 	

各指導項目の提示内容は説明する内容を箇条書きにします
 作業分解の作業手順・カンコツ急所に記載している内容、
 目標分析の最下要素ができるための具体的な作業手順
 や配慮事項、知識事項を記述します

適用には練習
方法/条件を
記述します

評価には評価
方法/項目を
記述します

4 作業分解記述のコツ

作業分解の目的は、訓練で扱う指導項目、提示の内容を見つけることです

作業分解例 げんのうによる釘打ち

作業が成功したと判断する基準

・ げんのうで釘を支えている手をたたかない	安全
・ 周囲にげんのうを当てたり、周囲の人が怖いと感じない (←安全に釘打ち作業ができる)	安全
・ SPF 材程度の堅さの木材に 80mm 程度の長さの釘を曲げずに打ち込める	成否
・ 木材に、げんのうの角を当てた痕をつけない (←仕上がり美しく釘打ち作業ができる)	成否
・ 80mm の釘を 10 打撃程度で打ち込める (←一定のスピードで釘打ち作業ができる)	やりやすく

ステップ	作業手順	急所とその理由
		げんのうの柄の端を持つ(板の厚さやくぎの太さで、持つ位置を)←やりやすく らな面で打てるように持つ←成否 は3本の指で持つ(なるべく3本指で 安定するから)←や く 先に近いところを持つ←やりやすさ
	打ちやすい位置に立つ	周囲に人・物がいないことを確認する←安全 腕を振りやすい位置に半身に構える←成否 体の正面ではなく右腕の正面の位置←成否 柄がくぎの頭に直角にあたるようにしたときに腕、手首が苦しく さに膝、腰で調整する←成否
		先を、くぎを打つ位置に合わせてから、板に対してくぎを する←やりやすく 押さえる手が、くぎの頭より出ていないことを確認する くぎの頭より出ていないことを確認する←安全 力強く打つ←安全 材料に入り込むのを感じている←安全 固定されていることを確認する←安全 していることを確認する←安全
		。←成否
	仕上げる	2~3回で打ち込めそうになれば、げんのうの頭を丸い面に 代える←成否 くぎの周りの材料を打たないように注意して最後の仕上げの打 ち込みをする。←成否
	くぎの入り具合・周囲 の傷を確認する	くぎの頭が材料に食い込むくらい打ち込む←成否 くぎの頭の飛び出しを指で確認する←成否

作業が成功したと判断する基準には、作業中、作業後がどのような状態になっていれば成功なのか、状態を記述します
指導案の到達目標を記述します

作業手順、急所とその理由から指導項目を導き出す際は、まず、各項目を安全・成否・やりやすくに分類します
その後、安全・成否・やりやすくの各項目を目的別に分類します
例:安全 の項目は、周囲を確認するための要素と手を打たないために2段階で打つ要素に分類できます。=安全に作業する手順(周囲確認、はじめ強く釘を固定→強く打つ)になります

指導項目	①安全に作業する手順 (周囲確認、初め軽く釘を固定→強く打つ)
	②傾きの確認と修正 (1打ごとに確認、傾きの反対から打つ、傾き大のとき修正)
	③仕上げを美しくする操作 (平面と丸面の使い分け、打ち込み量確認)
	④垂直にあてる感覚 (振る平面・手の高さ・肘の位置・立ち位置)
	⑤やりやすくするコツ (釘のもちかた、釘の置き方)
	⑥力強く・正確に打つ (柄の端、強く←手首のスナップ、正確に←垂直にあてる感覚との連動)

このまま、指導案の指導項目欄に転記します

5 目標分析の記述方法

目標分析の目的は、訓練で扱う指導項目、提示の内容を見つけることです

